

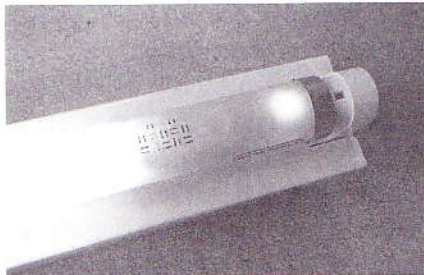
アンテック

**「エコ」と「安全性」を兼備
炎検知器内蔵のLED蛍光灯**

紫外線センサーなど製造販売の㈱アンテック(瀬戸内市呂久町豆田116-3、末石建二社長、資本金1500万円)は、6月14日、火災検知センサーを内蔵したLED蛍光灯を発売した。

蛍光管の片端に幅24mm、長さ99mmの小型紫外線センサーを内蔵。センサーの検知角度は140度。蛍光灯20本に対し1本を日安に設置することでフロア全体を検知できるという。通常の蛍光灯を利用している場合は、LED用の変圧器への変更が必要。

炎検出時は、センサー部が青く点灯



センサー部が点灯し火災を通知

して大まかな出火場所を通知。同時に無線通信で信号を送り、非常ランプの点灯や警報音などで炎の発生を知らせる。受信機は1台で40本からの信号を受信可能。検出は蛍光灯点灯時のみ。価格は5万2500円。

国内をはじめ、国を上げてLED照明への切り替えを進めている韓国市場をターゲットに営業。韓国は現地販売会社「ANTEC-KOREA」が対応する。事務所や工場、24時間営業の商業施設などへ導入を提案し、国内外合わせて初年度250本の販売を目指す。

末石社長は「エコと安全を兼ね備えた商品。国内外で広く利用を促したい」と話す。

イズミ

**平島店食品売り場を改装
ディスカウントで再出発**

㈱イズミ(広島市南区京橋町2-22)は、6月10日、岡山市東区東平島163の「ゆめタウン平島」食品売り場をディスカウント型に業態変更した。

取扱品目を従来の60%程度に絞り込むほか、箱積みや盛り売りなどを多用することでコスト低減を図り、従来の10~30%引きで販売。商材により1箱単位などのまとめ買いでさらなる割り引きもある。一般的なディスカウント

店との差別化を図り、低価格仕様の商品主体ではなく、ナショナルブランドを中心にした品揃えで「高感度なディスカウント業態」を目指す。

5月にディスカウント業態に変更した「神田店」(倉敷市神田2-13-1)では、改装後來店客数が30%アップで推移しており、平島店でも1.5倍の来店客数を見込む。

同社ではディスカウント型の食品売り場を導入したのは7店目。店舗概況は変わらず、店舗面積1万1300㎡。駐車場890台分。営業時間は午前9時半~午後9時。

**トヨタホームと強かに連携
岡山は「期待できる市場だ」**

ミサワホーム社長 竹中宣雄氏

ミサワホーム(株)(東京都)の筆頭株主がNPF-MG投資事業有限責任組合からトヨタホーム(株)(名古屋市)に移行した。両者の連携でどのような展望が開けるのか、ミサワホーム中国(株)岡山支店主催のMRDフォーラムのため来岡した竹中宣雄社長に、今後の戦略と岡山市場について聞いた。



■従来トヨタ自動車(株)(豊田市)との資本提携に基づきトヨタホームとの連携が進められてきたが、筆頭株主となったことで変化はあるか。

生産、物流、調達、土地の共同購入、商品開発などバックヤード面で協力してきた。トヨタホームが筆頭株主となったことでより強力な連携が可能になる。

■どのように連携を進めていくのか。

交流会を事業戦略会議と改め、開催回数も増加させる。ここで課題を検討する。経営資源を出し合い、両社がそれぞれアレンジすることで事業を進める。

■具体的にはどのようなことに取り組むのか。

住宅市場は人口、所帯数の減少など大きな環境変化に直面し、事業の在り方が問われている。これを踏まえ3年前に定めた中期事業計画では、事業構造の再構築と事業ポートフォリオの最適化の方針を打ち立てた。その中でも、ポートフォリオの最適化として推進する中古住宅の再生事業や介護分野での事業開拓は、トヨタホームでは手付かずで、この分野を今後一緒に推進していくことを検討している。まだ話には出ていないが、新分野での共同会社設立も選択肢の1つだ。

■2010年3月期決算は売上高が前期比11.9%減の3536億2000万円に対し、経常利益は同10.2%増の77億1200万円だった。

昨年度の経常利益は計画の60億円に対し77億円を実現した。同年度の新設住宅着工戸数が前年比25.4%減の77万5000戸と落ち込む中で増益を実現できたのは販売費、一般管理費の節減によるもの。これにはトヨタホームと進めてきたバックヤードの共通化によるコストダウンも大きく寄与した。

■岡山の市場をどう見ている。

優しいマーケットではないが、期待できる。これはミサワホーム中国(株)が長年培ってきた信頼と実績によるものだ。また歴代トップのマンパワーが素晴らしく、ここまで企業も人も地域に密着しているディーラーは珍しい。この地域密着度と信頼は全国ディーラーNo.1だ。これは介護、リフォームなど今後の重点事業においても大いに役立つだろう。市場が変化しても、信頼は普遍だ。われわれも見習いたい。